

# 令和4年度 学校評価書

延岡市立港小学校

## I 学校教育目標

確かな学力、豊かな心、健康な体をもつ港っ子の育成  
～一人一人のよさを最大限に発揮できる～

## II 学校経営ビジョン

職員が一丸となり、「一人一人」のよさや可能性を伸ばす指導・支援に取り組み、家庭・地域と連携した教育を推進することを通して、信頼され愛される学校を目指す。

## III ビジョン達成のための重点目標

- 「一人一人のよさと可能性(夢)、礼儀正しさ(心)、地域のよさ(誇)」
- 1 確かな学力の定着
  - 2 豊かな心の育成
  - 3 健康な体づくり
  - 4 学校・家庭・地域が一体となって取り組む教育活動の推進
  - 5 安心安全な学校づくり
  - 6 働き方改善による教育の質の向上

## IV 目標達成のための実践事項と評価計画(結果の%は「はい」「だいたい」と答えた割合、↑↓は昨年度との比較)【5段階評価 5(90%以上) 4(89%~80%) 3(79%~60%) 2(59%~30%) 1(30%未満)】

目標	実践事項と評価項目・数値目標	結果	自己評価	考察・分析、改善策	学校評価	学校関係者コメント
確かな学力の向上	<b>1 わかる授業・考える授業</b> ① 主題研究による複式授業の充実 ② タブレット活用による個に応じた指導の充実 ・学力検査・市 CRT 検査 全国・県・市の平均 (個人得点+5点) ・保護者や児童の授業満足度 90%以上	(授業満足度) (分かりやすい授業) 児童 100%↑ 職員 100% 保護者 100% 地域 69%	3	・国語科におけるタブレットを活用した学習指導の在り方や主体的で対話的な深い学びについて重点的に研修を重ね、わかる授業・考える授業に取り組むことができた。 ・全国の学力調査、CRT 検査の結果、7割の児童が平均を上回ることができた。今後は個に応じた指導をさらに充実させ、複式学級における基礎・基本の確実な定着を図っていきたい。 ・授業や学校行事等で、自分の考えを表現する場を多く設定したことで、自分の言葉で説明したり、感想を述べたりする力が身に付いてきた。	3	・学習内容が理解できていない児童への個別の指導はどのようにになっているのか。放課後子ども教室で分からないところを聞いてくれることがある。 ・アンケート結果や評価を見ると基礎・基本が付いているように思えるが、普段の授業を見ることがないので、先生たちがどのような授業をしているのかが分からない。 ・「ものごとをはっきりと伝える」など筋道立てた話し方ができるように今後も指導してほしい。
	<b>2 基本的な学習規律の徹底</b> ① 学習姿勢の指導 ・学習姿勢の定着率90%以上 ② 家庭学習の充実 ・家庭学習の実施率90%以上	(姿勢) 定着率 児童 92%↑ 職員 100%↑ (家庭学習) 児童 85%↑ 職員 100%↑ 保護者 67%↓	4	・タブレットの使用が増え、昨年度より姿勢や視力の低下が懸念されたが、教具や補助具を活用して授業中でも児童が互いに気を付けるようにすることで昨年度よりも視力の低下は見られなくなってきた。 ・家庭学習の定着については放課後教室だけではなく、家庭でも学習に対して保護者のチェックや見取りの協力をお願いしてきた。生活リズムとの関連が大きいので、今後も家庭への啓発・連携を図りたい。		
	<b>3 メソッドタイム及びスキルタイムの充実</b> ① 集中力の向上 ② 児童の意欲の持続化を図るための工夫 《陰山メソッドテスト》10月実施	メソッドテスト 音読暗唱 100% 百マス計算 100%↑ 全漢字 85%↑	4	・朝の時間に音読・百マス計算を継続して取り組んだことで集中力が増してきた。音読は全児童が暗唱でき、百マス計算3分以内100%、全漢字練習85%と昨年度よりもさらに伸びが見られた。着実に基礎的な計算力・漢字力が定着してきているので、次年度も継続した指導を行っていききたい。		

	<b>4 学習環境の整備充実</b> ① 読書活動の推進(図書館環境の整備) ・年間読書量 低(200冊)中(100冊)高(80冊) ② 作品の積極的応募 ・作品展への応募(入選、紙面掲載)20点以上 ③ 教室環境の整備	(読書習慣) 児童 61%↑ 職員 83% 保護者 50%↑	3 ・年間読書量の目標達成に向け、ふくろう号を有効活用したり、図書委員会による本の貸出促進を行ったりした。また、読書記録を家庭での課題として取り組ませたことで、家庭での読書時間も昨年度よりも増えた。 ・各学年での作品応募を積極的に行い、新聞掲載や作品展での入賞など児童の自信につなげることができた。	・新聞掲載を見ることがあるが、どの程度の割合で作品を出展しているのか。
<b>豊かな心の育成</b>	<b>1 基本的な生活習慣の定着</b> ① あいさつの指導 ・地域でも進んであいさつができる 80%以上 ② 整理整頓の指導 ・くつ、ぞうきん、かさがいつも整っている 90%以上 ③ 静の場(清掃時 移動時 自習時 給食片付け時 全校集合時の無言)の徹底 ・静の場で無言が守られている 100% ④ 学校のきまりの意識付け	(あいさつ) 児童 100%↑ 職員 100% 保護者 100%↑ 地域 100%↑ (整理整頓) 児童 100% 職員 100%↑ (静の場) 児童 100%↑ 職員 100%	5 ・校内及び地域でのあいさつについては、昨年度よりも声が大きくなり、気持ちのよいあいさつができるようになってきた。地域からも、元気のよいあいさつができていて大変気持ちよいとお褒めの言葉をいただいた。今後も家庭と連携して継続した指導をしていきたい。 ・整理整頓や無言の場は、児童、職員ともに十分達成できたと評価していた。移動時や教師不在時の無言徹底も引き続き指導が必要である。	
	<b>2 思いやりの心づくり・望ましい人間関係づくり</b> ① 人権教育の推進 ② 特別支援教育の推進 ③ 異学年交流の推進(朝のボランティア、昼休みの遊び、全校での取組) ・困っている人を助けたい、人に親切にしたい 100% ・学校に行くのを楽しみにしている 100%	(親切) 児童 100%↑ 職員 100% (楽しみ) 児童 100%↑ 職員 100% 保護者 100%	4 ・委員会や給食当番、学校行事において、6年生が中心となって、下学年のお世話をしたり教え合ったりすることができた。また、昼休みには全員で遊ぶ日を行い、集団としての関わり合いも上手になってきた。 ・相手の気持ちを考えながら過ごすことができ、相手を傷つけたりするようなことはほとんどなかった。今後も教育相談等を充実させ、児童の困り感や悩みを解決することで、学校に行くことが楽しみになるようよりよい人間関係づくりに努めていきたい。	4
	<b>3 キャリア教育の推進</b> ① キャリア・パスポートの活用 ・場に応じた礼儀をもって行動することができる 90%以上 ② 日本文化の伝承・体験(放課後子ども教室との連携) ③ 「見る 知る 感動する 体験する」場の設定 ・自分の夢や目標をもっている 90%以上	(礼儀) 児童 100%↑ 職員 100% (夢をもつ) 児童 92%↑	4 ・行事ごとに目標と反省をキャリア・パスポートに記入していき、活動の足跡を重ねていった。 ・放課後子ども教室では、貴重な日本文化の体験(日本舞踊・茶道・コップ敷作成)をすることができた。また、文化センターでの日本舞踊発表など体験の幅を広げることができた。 ・友内川カヌー体験やグラウンドゴルフ大会、キャリア教育に関する講話及び活動(新聞社・森林教育・陶芸教室)を通して、様々な仕事の特徴ややりがいを知る機会となった。	
	<b>4 明るい環境づくり</b> ①花いっぱい ②歌声響く ③絵が映える(計画的な児童作品掲示と鑑賞) ④ゴミゼロ ・常時子どもの作品が大切に掲示されている 100% ・ゴミが一つも落ちていない 100%	(ゴミゼロ) 児童 92%↑ 職員 100%↑ 保護者 100%	4 ・プランターや花壇の整備、教室や廊下等の掲示物の定期的な張替など計画的に行うことができた。 ・隔週で清掃場所を替え、2週間に一度は清掃できるようにした。朝のボランティア活動など時間を見つけて率先して行う等、これからもゴミゼロの意識を高めたい。	

健康な体づくり	<b>1 体力づくりの推進</b> ① 体力向上プランの共通実践 ② パワーアップタイムの充実 ③ 外遊びの推進 ・新体力テストで、個人到達目標達成 100%	(体力) 児童 85% ↑ 職員 100% 保護者 100% ↑	4 ・体育の授業及び朝の活動(パワーアップタイム)での持久走やなわとび、昼休みのみんなで遊ぶ日を設定し、運動量を増やすことで体力の向上に努めた。 ・体力テストの個人到達目標をほぼクリアし、握力及び腹筋は県平均を全学年とも上回った。	・ゲーム等に関する具体的なルールはどのように決めているのか。
	<b>2 生活リズムの確立</b> ① 「早寝・早起き・朝ごはん」の推進 ② ゲーム・携帯電話ルールづくりの推進 ・早寝・早起き・朝ご飯やテレビ・ゲームの視聴時間等、規則正しい生活が身に付いている。 80%	(早寝・早起き) 児童 100% ↑ (朝ご飯) 児童 100% ↑ (テレビ・ゲーム) 児童 92% ↑ (生活リズム) 保護者 83% ↓	4 ・早寝・早起き・朝ごはんについては、ほぼすべての児童ができていた。登校時の集合時刻に間に合わず、車で送ってもらった児童が本年度もいたので、引き続き声かけを行っていく。 ・学校保健委員会での講話や全校朝会での繰り返し指導の結果、通信ゲームや配信動画等に費やす時間や影響について意識することができた。引き続き児童及び保護者に継続して指導をしていく。	
	<b>3 食育指導の推進</b> ① 給食指導の充実 ・好き嫌いをしないで、食べることができる 90%以上 ② 食事のマナーの向上 ・食事のマナーを守って食べることができる 100%	(好き嫌い) 児童 100% (マナー) 児童 100% ↑	4 ・好き嫌いや偏食の児童がいるものの、全員が完食を目指し、頑張って食べる姿が見られた。また、ほとんどの児童が時間内に食べ終えることができるようになった。 ・コロナ禍3年目が過ぎ、黙食があたりまえになりつつある。給食当番や食事のマナーについても、きちんとできるようになった。	
	<b>4 家庭への啓発</b> ① 学校保健委員会の充実 ② 家庭の健康への意識向上(歯の健康) ・むし歯治療率90%以上	治療率 (R1) 74% (R2) 56% (R3) 77% (R4) 57%	3 ・毎日の歯みがき指導に加え、歯みがき全国大会への参加など歯の健康について意識して取り組むことができた。昨年度に続き、未治療の児童がいて、声かけを続けているが、改善できていない。むし歯に対する家庭の意識の差が大きく、今後も保護者への啓発を継続して行っていきたい。	
家庭・地域との連携	<b>1 地域の人材・素材を生かした教育活動の推進</b> ① 教育環境をいかした取組の充実(梅林、野外教室、夢の冒険小屋、地域人材、学校行事、学校支援ボランティア) ② 学校地区合同行事での取組の充実 ・地区と連携した行事や地区の行事に積極的に参加している 100% ・学校支援ボランティアとの連携による教育活動を展開している 100%	(参加) 児童 84% ↑ 職員 83% ↑ 保護者 100% 地域 77% ↓	3 ・梅ちぎりや寒肥、除草活動を通して緑化保全活動に取り組み、自然を守っていこうとする態度を育てることができた。 ・学校支援ボランティアの方々との例年通りの交流活動はできなかったが、運動会や学習発表会、グラウンドゴルフ大会やマラソン大会など地域の方々へ児童の頑張りを見ていただくことはできた。	3
	<b>2 ふるさと教育の推進</b> ① 地域文化の伝承、体験活動の取組 ② 「子どもたちに伝えたいこと」の取組(公民館登校、港わんぱく太鼓、子どもたちに伝えたいこと) ・延岡や港小学校を好きである 100%	(郷土愛) 児童 100% ↑	4 ・公民館登校では、港公民館で、新聞紙バックやブリキ板ゴミ箱づくりを教えてもらい貴重な体験をさせてもらうことができた。 ・運動会や学習発表会において、雲海太鼓の平野さんの指導のもと、太鼓の演奏を披露することができた。昨年度より、全校児童による継承活動となった。	

	<b>3 幼保小中連携教育の充実</b> ① 東海中校区指導力向上プロジェクト内容の取組 ② 浦城小・川島小・東海小交流学习の充実 ③ 幼保小による会議の充実 ・プロジェクト会議の重点取組事項の達成 90%		4	・浦城小や川島小、東海小との交流学习を行うことができ、大人数での学習に意欲的に取り組むことができた。 ・東海中校区指導力向上プロジェクト会議では、学習指導や生徒指導などについて、4校で共通した取組ができるように協議を深めることができた。幼保小連携会議では、幼稚園、保育園と児童理解について協議を行うことができた。	
安心安全な学校づくり	<b>1 命を大切にする教育活動の充実</b> ① 交通安全指導の徹底 ② 避難訓練の計画的実施 ・交通のきまりを守り、けがや事故に遭わないように気をつけている 100%	(交通安全) 児童 92% ↓ 職員 100% 保護者 100% 地域 100%	4	・延岡警察署の方に来ていただき交通教室を実施した。それぞれの集団登校班が交通のきまりを守り安全に登下校できていた。 ・本年度は、火災、地震(津波)、不審者対応と非常時の避難訓練を計画通り実施できた。また、放課後子ども教室のサポーターの方も参加して訓練を実施することができた。	・コロナ禍だが、マスク着用については学校としてどのように対処していくのか、子ども同士で差別につながるような言動が起きないようにマスク着用のルールについて確認してほしい。
	<b>2 いじめのない学校づくり</b> ① いじめについて考える場の設定 ② 教育相談の充実 ・いじめのない学級づくりに取り組んでいる 100%	(いじめ等) 児童 92% ↓ 職員 100% 保護者 100% (教育相談) 児童 100% 職員 100% 保護者 91%	4	・自分の感情をうまくコントロールできるようになり、相手の気持ちを考えた行動ができるようになってきた。毎月、教育相談を行い、全職員で連携しながら、小さなトラブルの段階で解決できるように、常に危機意識をもって対応した。児童のみならず、保護者からの相談等についてもすぐに対応し、いじめ防止に努めた。	
	<b>3 危機管理意識をもった施設管理や諸対応</b> ① 活用できる危機管理マニュアルの整備 ② 定期的、日常的な安全点検 ・危機管理マニュアル、防災マニュアルの見直し、改善 100%	(安全) 保護者 64%	3	・コロナ感染症に関するマニュアルに則り、学校としての対応の仕方や職員の役割について共通理解をすることができた。 ・定期的に安全点検を実施し、学校で修繕可能な箇所はすぐに修繕した。また、市教育委員会には、常時危険な場所、破損箇所について報告を行い、修繕に努めた。本年度新たに土砂災害時の避難確保計画を作成し、避難訓練等を実施することができた。	
	<b>4 確実な情報共有</b> ① 報告、連絡、相談の徹底 ② 保護者との連携 ・常時、保護者と何らかの連絡をとっている 100%	(保護者との連携) 児童 100% ↑ 職員 100% 保護者 100% (連絡) 保護者 100%	4	・学校便りや学級通信、連絡メール、職員玄関掲示物、ホームページ等を通して、常に情報提供を行った。 ・連絡帳や電話、家庭訪問等での連絡を適宜行い、保護者との情報共有を行っている。	